2017年3月17日
飼料用米普及のためのシンポジウム2017

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

飼料メーカーから見た
飼料用米普及のための課題

昭和産業株式会社
飼料畜産部業務課
多田井　友揮

目次

1. 昭和産業のご紹介

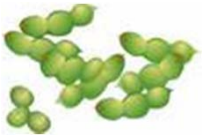
2. 飼料用米取組の目的

3. 飼料用米の数量拡大に向けた課題

“穀物ソリューションカンパニー”
昭和産業株式会社

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

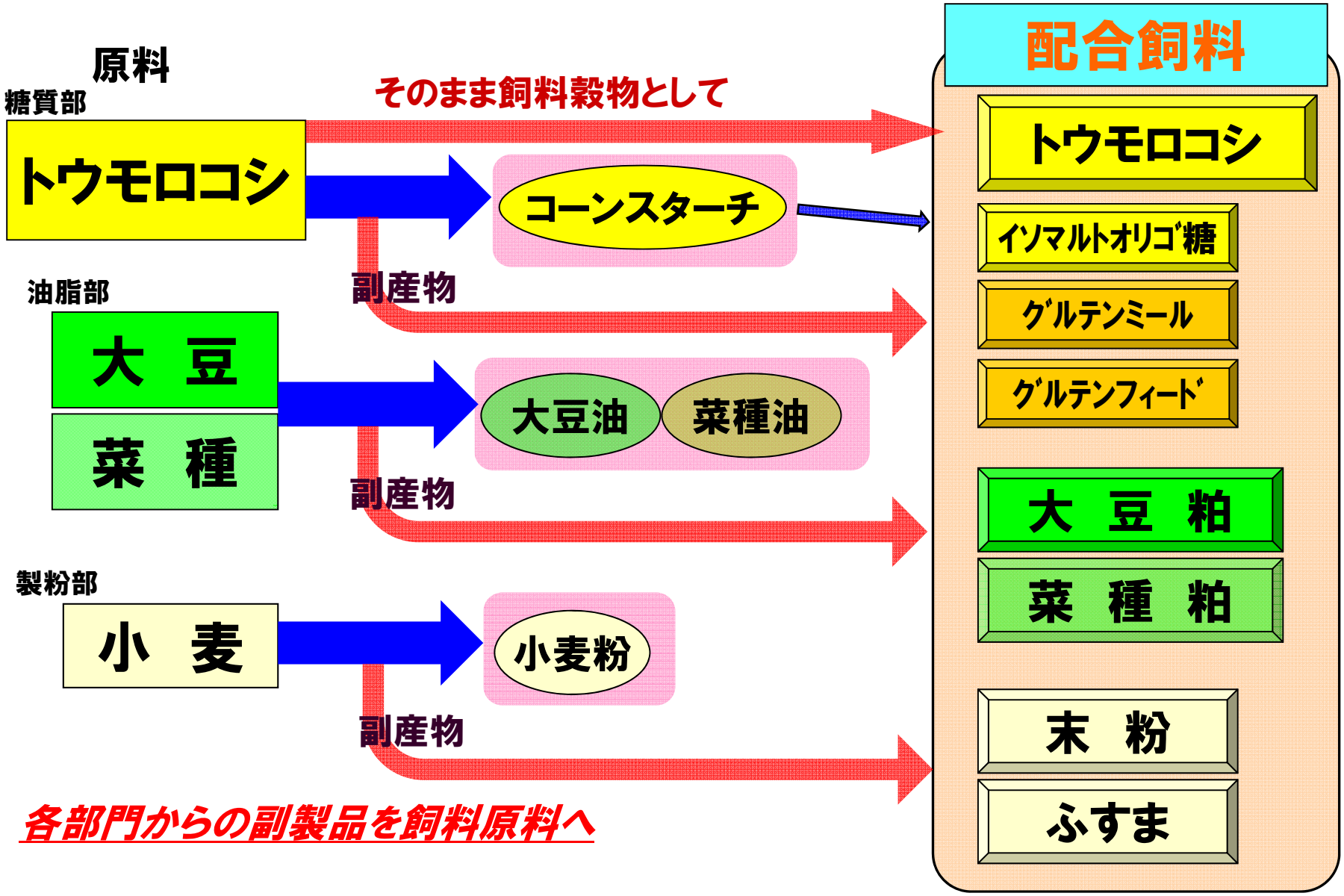
700g



10

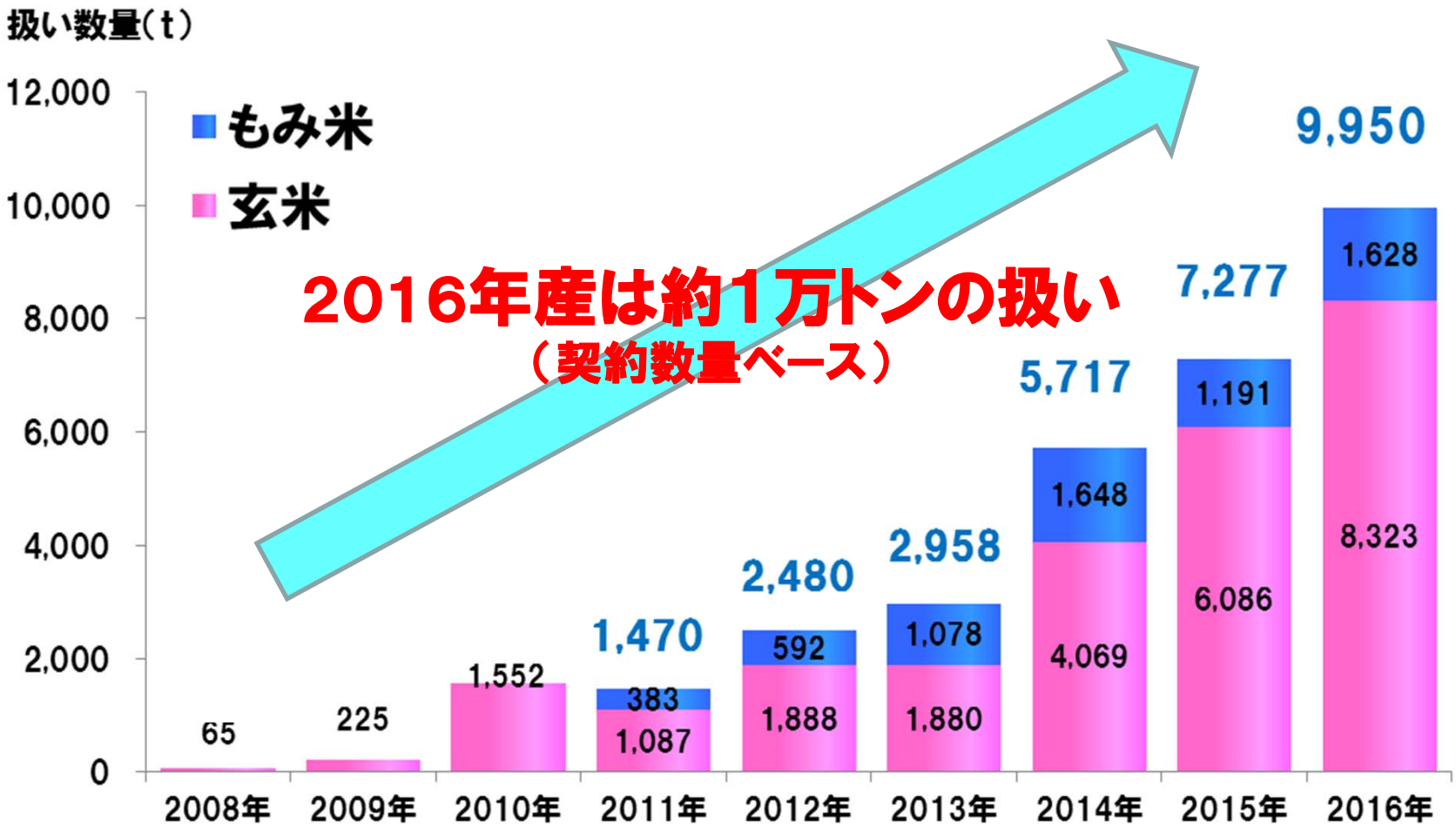
小麦　大豆　菜種
トウモロコシ　etc

食品製造の副産物を配合飼料に



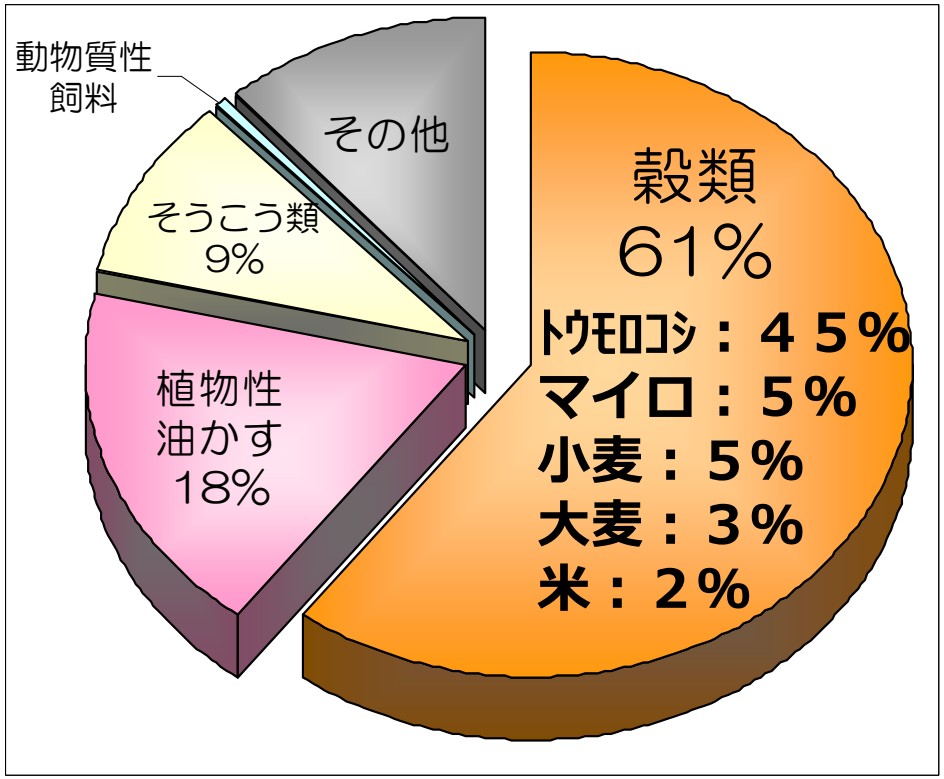
各部門からの副製品を飼料原料へ

年々拡大する弊社の飼料用米取組量

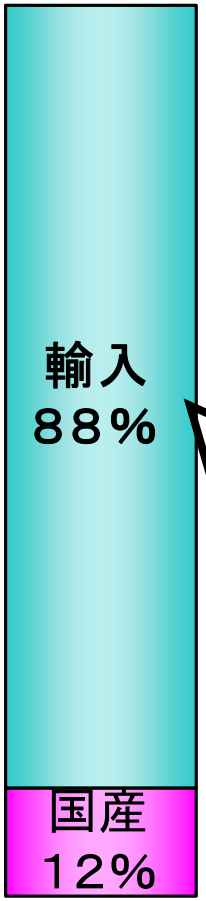


輸入トウモロコシから作られる配合飼料

全国の配合飼料の流通量
（年間２,４００万t）



☆飼料自給率について



配合飼料の
大半は
輸入原料！

飼料価格は
輸入トウモロコシ相場に左右される

飼料用米を使用する目的

食料・農業・農村基本法（農林水産省HP参照）

●食料の安定供給の確保

●多面的機能の十分な発揮

・国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等

●農業の持続的な発展

・農地、水、担い手等の生産要素の確保と望ましい農業構造の確立

・自然循環機能の維持増進

～現状ある水田を有効活用することが重要～

飼料用米取組みの目的

【トピックス】

米国の北西部で前例のない大寒波が発生し、線路が雪に埋まりトウモロコシを運び出せないなど、穀物輸送の大混乱が発生。

日本のトウモロコシ需給も綱渡り状態に陥った。

貨物列車の線路が雪に埋没

荷物が来ないので港では船が停滞

輸入トウモロコシへの依存を下げ、
飼料自給率を高める（飼料用米を使用する）ことが必要

飼料メーカーから見た
飼料用米普及のための課題

全国生産目標の１１０万トンに向けて

1. 数量拡大に向けたインフラ整備

2. 使用までにかかるコスト低減

3. 飼料用米を使用している畜産物の
   さらなる普及・拡大

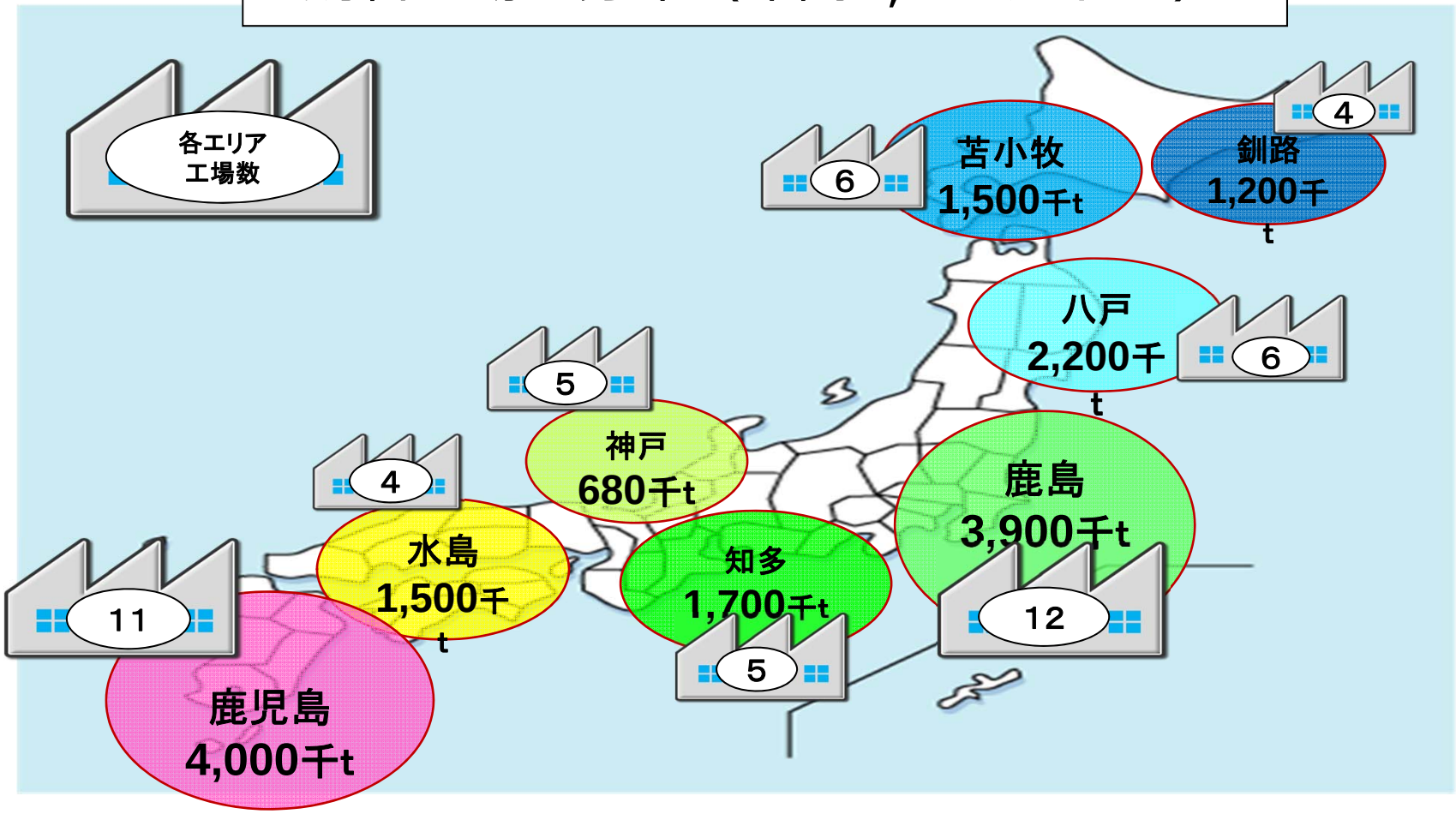
1.数量拡大に向けたインフラ整備

【現状の課題】

- 飼料工場から近い保管倉庫の不足
- 集荷時期の集中による入庫の停滞
- 紙袋流通の限界
- 飼料工場へバラ持込ができる
  ダンプ車の不足
- 農産物検査を行なう場所・検査員の不足

1.数量拡大に伴うインフラ整備

飼料工場の分布（年間2,400万トン）



飼料工場は港湾に多く立地。

しかし、**<u>飼料用米を受入れる港湾倉庫は不足</u>**。

1.数量拡大に向けたインフラ整備

主要原料はサイロ・もしくはバラ持込で受入れ。

1.数量増加に向けたインフラ整備

飼料工場で多量の飼料用米を受け入れるには・・・

①紙袋から**フレコンへの詰替**が必須。

②**収穫から一定期間は産地で保管し**、飼料工場へは**バラ持込み**、

なおかつ**時期を分散化**させることが理想。

⇒そのために飼料用米の**カントリーエレベーター**の検討も必要。

1.数量増加に向けたインフラ整備

飼料用米協議会

生産者

③運送会社への搬入

運送会社

④倉庫への搬入

各市町村

①協議会の招集
②契約書作成
⑥請求書作成
⑧代金の分配

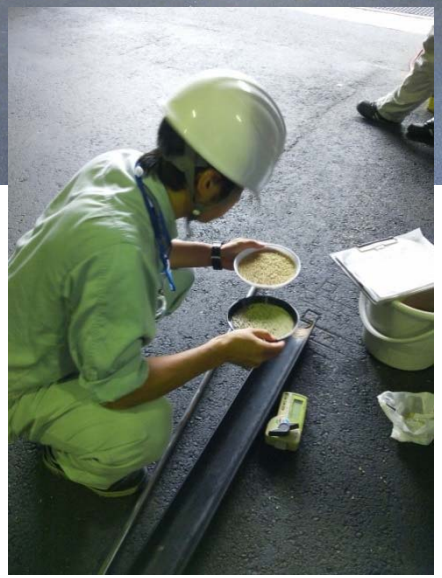
昭和産業

⑤入庫数量を各市町村に報告
⑦飼料用米代金を支払い

各市町村が仲介役となることで、**小規模生産者でも安心して取り組める**ようになるのが**「飼料用米協議会」**。

1.数量拡大に向けたインフラ整備

農産物検査体制 の強化



・**<u>検査員の増員</u>**
・**<u>検査方法の効率化</u>**
が実現されないと、かえって数量拡大の障壁となり得る。

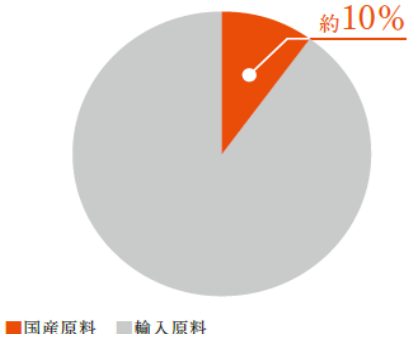
2.使用までにかかるコスト低減

使い手（飼料メーカー）としては、
輸入トウモロコシよりも低コストでの使用
≒ 飼料用米の**物流経費の圧縮**が必須

3.飼料用米を使用している畜産物のさらなる普及・拡大

穀物ソリューション・カンパニー SHOWA 昭和産業

■一般的な採卵鶏用飼料



■和のしずく専用飼料

たまごのある暮らし

<u>飼料用米の使用意義</u>（自給率向上、水田保持等）や、**<u>畜産物の特徴</u>**を発信していくことが必要。

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業